

御所湖随想

H21年11月 No.4

雑草

皆さんは、路傍の草や、畑の草を見れば、ほとんどの人が「雑草がいっぱいだ」と言うでしょうね。でも、雑草という名の植物はないのです。奇しくも生物学者の仕事をしていた昭和天皇がある日のこと、側近が「ここから先は雑草です」と申し上げたところ、昭和天皇は「雑草という草はない。それぞれに名がある。」と答えられたという逸話があります。

でも、名を知らない草を一括して“雑草”と呼ぶのは、非常に都合のいい言葉ですよね。本当の名前を知らなくても、その草を現しているのですから。

草は雑草ですが、林業の関係者は、雑木と言っています。スギ、マツ、ヒノキ以外を総称してザソク。なんとも潔い、金にならない木は用がない、という気持ちなのでしょう。

確かに、農業では、雑草は“用途以外の草”、“植え付けた作物以外の草”を指しています。田畑を利用して生計たてている農家の耕作地には、綺麗に畝を作った大根の畑では大根だけ、ハウレンソウのハウスにはハウレンソウだけ、田圃ではイネ以外の草は生えていない。すっきりと目的作物以外の植物はない状態です。雑草を生やさないために、どれ程の労力を費やし、農薬を使っているのか。自然の環境では考えられない状態です。でも、そのおかげで収量があがり、多くの人々が恩恵を被っています。



来春は、いわゆる雑草をテーマにした観察会もやりたいと思っています。なにげなく、見逃してしまう路傍の草花。田圃の雑草、畑の雑草。よく見ると、かわいい草花も多いのです。ヒメオドリコソウ、イヌフグリ、キンポウゲ、フデリンドウ、サギゴケ、カキドウシ、スミレ、タチツボスミレ、ニョイスミレなどなど。紫色の花が多いようですね。



木本では春先に黄色の花が多いようです。レンギョウ、キブシ、ヤナギなど。冬の間寒さに縮こまっていた花芽が一斉にふくらみ、春の暖かさを吸い取り黄色くなるのでしょうか。そして、さらに燃えていき、ピンクのサクラになり、色が褪せて初夏の白い花になっていく。と、空想をたくましくするのもおもしろいと思いませんか。こんなところで季節の移ろいを感じることができるのも、自然のありがたさではないでしょうか。

